

# 三育だより

2025年12月24日発行

2025年度第2号

学校法人三育学院 東京三育小学校

〒177-0053 練馬区関町南2-8-4

TEL 03-3920-2450

URL <https://www.tokyosaniku.ed.jp/>



校訓「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。」(口語訳聖書)

『世界で一番の贈りもの』 絵本が教えてくれる大切なこと 学校長 平田 理(ひらた まこと)

『世界で一番の贈りもの』は、マイケル・モーパーゴ卿(Sir Michael Andrew Bridge Morpurg, 1943～)(マイケル・フ  
ォアマン(絵)、佐藤見果夢(訳)評論社2005年)による絵本で、第一次世界大戦中に実際に起こった「クリスマス  
休戦(Christmas Truce)」をモチーフにした物語です。

1914年クリスマス。戦線各地で兵士たちが、クリスマスに自発的に武器を置き、塹壕から出て交流した記録があり  
ます。彼らはある物の中からプレゼントを交換し、故郷について語り合い、和んだと言われます。この休戦は束の間では  
ありましたが、兵士たち同士が皆、家族を愛し、平和を願うごく普通の人間であることを痛感させ、平和の大切さを強く  
願っていたことを伝えています。更に、この絵本は、映画『Joyeux Noël(邦題:戦場のアリア)』(2005年)の原作になり、  
戦争の悲惨さと、それに対峙する人間の良心や深い愛情を思い起こさせ、何よりも、平和を強く願うことの大切さを投  
げかけたのです。

絵本や映画で描かれた「クリスマス休戦(Christmas Truce)」は、戦場の各地で非公式に数日間、更に長く続いた  
場所もあったようですが、兵士たちの間で自然とわき起こった一時的な停戦合意でした(現在のフランス北部やベル  
ギーのフランドル地方など)。これは対峙した国同士の正式な協定ではありませんでしたから、単なる偶然だったのかも  
知れません。

では、なぜその夜に、塹壕沿いにクリスマスツリーが飾られ、ろうそくが灯されたのでしょうか。なぜ戦場で、潜んでいる  
場を教えるように兵士が声を出して「きよしこの夜」などの讃美歌を歌い始めたのでしょうか。それを聴いた敵対する兵士た  
ちが同じ歌や、自国のクリスマスキャロルを歌い返したり、バグパイプで伴奏をつけたりしたのでしょうか。ましてや、なぜこ  
の音楽の交換を、戦場にも関わらず「今夜は攻撃しない」という暗黙の了解と感じたのでしょうか？

戦争という極限状態の中でも、兵士一人ひとりが持つ人間性や平和への強い願いが、  
国境の防衛意識や敵対感情を一時的にでも上回り、戦時下では有り得ない方向へと導い  
た「不思議」ではないでしょうか。この強く抗えない、祈りにも似た、不思議な働きかけによっ  
て、多くの兵士たちの心に刻まれていた讃美が思い起こされ、平和を待ち望む素直な気持  
ちが呼び覚まされたのではないかと考えます。この歴史的にも特別な出来事「クリスマス休  
戦」は、「単なる偶然」ではなく、『世界で一番の贈りもの:キリストの誕生』がもたらした「奇跡」  
であったと思わずにはられません。

Joyeux Noël!! (ジョワイユ・ノエル!!) (Merry Christmas)



Tokyo San-iku Elementary School

Since 1898

東京三育小学校

# 校内行事報告

## 東京三育祭

今年から「東京三育祭」と名称を改め、保護者の方々が忙しい中子どもたちが喜んでくれるように、また学校のために大きな労力と時間を注いでくださいました。子どもたちはゲームや工作、クイズ形式のスタンプラリーに大喜び・大興奮でした。初企画のキッチンカーもあり、美味しいお食事やスイーツ、野菜の詰め放題には大人が大喜びでした。5～6年生はエディブルスクールヤードの取り組みとして、ポットで栽培した葉物野菜を来場者に販売し売上をADRA Japanに寄付し役立てていただきました。

## 芸術鑑賞会(人形劇団 ひとみ座)

互いを思い合う心、戦争、平和、尊いいのちについて考えさせる人形劇団 ひとみ座『シュレミールと小さな潜水艦』を鑑賞しました。2学期の学びの中心であった作品で、子どもたちも教職員も感動しました。



## 平和について考える(5～6年生)

ADRA Japan 渡辺千里さんによって5～6年生へ「平和について考える」総合授業が行われました。世界には災害・内紛・戦争によって国を追われ、必要な援助が届かず命を失う人々が多くいる現実を教えてくださいました。また『戦争のつくりかた』(文:りほん・ぶろじえくと 絵:井上ヤスミ)と「平和への誓い」(今年8月6日広島平和式典・子ども代表による)を読み、「平和はやってくるものではなく、わたしたちがつくり出すものです。」と話され、平和を考えるきっかけになればと授業展開していただきました。

## いのちの授業(2年生・5年生)

三育学院大学看護学部・東京校舎と東京衛生トバノチスト病院において、出産、赤ちゃんの成長、心臓の働き、5年生は通常医療従事者が扱う医療器具・機器に触れ、大学や病院の先生から説明を聴きました。3,000gの赤ちゃん人形を抱っこしたり、着替え、自分の心臓音を聴いたり、脈をとったりして、命を与えてくださった神様への感謝と、お家の人への感謝の言葉が子どもたちから自然と出ました。「あなたはお金では買えない存在です。」との先生方の言葉が皆の心に強く残りました。

## 祈 禱週

天沼教会副牧師の高橋祐希大先生による1週間の祈禱週でした。総題は「祈ってごらんよわかるから」。フィリピの信徒への手紙 4章6～7節を



中心聖句としてメッセージをいただきました。お昼休みには、お祈りに応えてくださる神様に「お祈りしたい」「お祈りしてみよう」という多くの子どもたちが、毎日チャペルでお祈りをお捧げしました。



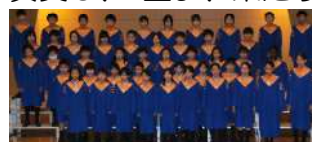
## クリスマス礼拝

礼拝のテーマは「JOY to the World」。テーマ聖句としてはフィリピの信徒への手紙4章4、5節「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。」でした。1～2年生のオペレッタによる降誕劇、3～6年生による賛美と暗唱聖句によって、保護者の方々やご招待のお客様・約200名と共に礼拝しました。約2か月にわたって祈りをもって練習と準備を重ね、神様に委ねられたメッセンジャーとして豊かに用いられました。クリスマス献金はADRA Japanを通してネパール教育支援に用いられました。



## 三育クリスマス 2025

今年は広島三育学院高等学校、三育学院中等教育学校と共にコンサートが行われました。天沼教会には約500名の来場者があり、神様を賛美する美しく高らかな歌声とハンドベルの音が教会に満ち、イエス様のみ名が会衆一同の心に刻まれました。最後には会衆と共に「天国の子どもたち」を賛美し、「主よ、来たりませ」の願いと、感謝であふれました。クリスマス献金はADRA Japanを通してウクライナ支援に用いられました。



2学期をお祈りでお支えくださり感謝いたします。12月23日(火)～1月7日(水)は冬期休暇となります。皆さま佳いお年をお迎えください。